

北海道地区 FD・SD 推進協議会共同企画3（ラウンドテーブル）プログラム

日時：2016年10月19日（水）9:00～12:00

場所：北海道大学学術交流会館（札幌市北区北8条西5丁目）

プログラム：

9:00～10:25，第一部

- ・ラウンドテーブル①アクティブラーニング……………第3会議室
- ・ラウンドテーブル②アクティブラーニング……………第4会議室
- ・ラウンドテーブル③IR (Institutional Research)……………第6会議室
- ・ラウンドテーブル④SD全般……………第2会議室

10:25～10:35，休憩

10:35～12:00，第二部

- ・ラウンドテーブル⑤アクティブラーニング……………第3会議室
- ・ラウンドテーブル⑥FD全般……………第4会議室
- ・ラウンドテーブル⑦SD全般……………第2会議室

※ラウンドテーブルへの参加について

どのラウンドテーブルへも参加は自由です。途中で別のラウンドテーブルの報告を聞きたい場合等、会場は自由に移動してください。

ラウンドテーブル①アクティブラーニング(9:00～10:25, 第3会議室)

司会: 山本 堅一(北海道大学高等教育推進機構)

発表:

「札幌北高校におけるアクティブ・ラーニングの取組～主体的・対話的で深い学びに向けて～」

中道 洋友(札幌北高校, 教諭, 招待発表者)

高校では次期学習指導要領において、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が求められている。しかし、高校現場にアクティブ・ラーニング(以下AL)という概念が広まり始めて2年足らずであり、試行錯誤が続いている。本校では、急激に変化する教育環境に適切に対応するため、ALを研究・実践するための委員会を今年3月に立ち上げた。本校の委員会の活動内容や本校でのALの取組(特に物理の授業)について報告する。

「教養科目物理学におけるアクティブラーニング促進への試み」

齊藤 準(帯広畜産大学, 教員)

アクティブラーニングの促進を目指す取り組みとして、農畜産系大学における教養科目物理学の授業実践の試みと、履修者の学習時間や学習成果、アンケート等にもとづくその検証結果について報告する。これにより、クラスサイズや授業形態、科目そのものの特性、特に物理学に特有の傾向、および履修する学生の背景や志向・履修動機の高齢性等に応じたアクティブラーニングの促進に関して、課題や展開の可能性を探求的に検討・共有したい。

「双方向遠隔授業システムを活用したアクティブラーニング」

金山 正彦(北海道教育大学教員養成改革推進本部, 教員)

北海道教育大学では、平成29年度から双方向遠隔授業システムを活用した「学校臨床研究」の授業を行います。

これは、附属学校の他、域内の公立の学校、小規模校などの授業をライブで参観し、大学において授業研究を行うものです。さらに、授業研究に当たっては、学生が主体的に課題探求を行うことができるよう「アクティブラーニング」をメインとした授業を構築します。今回の発表は、昨年度本実施に向けて行った試行の取組内容です。

ラウンドテーブル②アクティブラーニング(9:00～10:25, 第4会議室)

司会: 下郡 啓夫(函館工業高等専門学校)

発表:

「大規模クラスにおける効率的なアクティブラーニング手法」

大津 晶(小樽商科大学商学部社会情報学科, 教員)

教員と学生あるいは学生同士の多様なコミュニケーションを取り入れる形式のアクティブ・ラーニング導入が進む中で, 大学の授業運営で不可避な大人数クラスにおいても, グループ作業やディスカッションの質を高める工夫が求められている。学生私有の携帯端末を用いて効率的なクラス全体の講義参加を実現し, 学生が同時に複数の仮想グループでの意見を参照しながらディスカッションの質を高めていく講義手法の事例について報告する。

「初年次生を対象にした多職種連携教育と評価の試み」

安部 博史(北海道医療大学大学教育開発センター, 心理科学部併任, 教員)

本学初年次生(約750名)の多職種連携教育においては, 模擬症例の支援のあり方について学部・学科を越えた混成グループ(6～7名)によるグループワークを実施している。初対面の新入生同士が, 互いの性格や能力を理解・尊重しながら協働して問題を解決する経験を通して, 多職種連携協働における基本的態度の涵養と知識の習得を目的とする。取組中の評価方法の改善に関する話題もあわせて提供させていただきご意見いただければ幸いです。

「基本的資質の向上等を目指した北海道科学大学における初年次教育の概況」

河合 洋明(北海道科学大学高等教育支援センター, 教員)

本学においては, 2014年度より, 高等教育支援センター内に「情報教育」, 「人間・社会の理解」, 「プロジェクト教育」の3グループからなる学士課程教育支援部門が設置された。中でも, 「プロジェクト教育」グループは, 学士力や社会人基礎力の将来的な獲得を視野に, 学生へのはたらきかけを中心とした授業を展開している。これは, 入学時から2年生前期までの期間, プロジェクトスキルⅠ, Ⅱ, Ⅲという科目で実施されている。ここでは, 実施の概況や問題点等について述べ, 情報共有および意見交換に供したい。

ラウンドテーブル③ IR (9:00 ~ 10:25, 第6会議室)

司会: 細川敏幸(北海道大学高等教育推進機構)

発表:

「甲南大学におけるIRの実践 ~大学IRコンソーシアム共通調査をはじめとした各種データの活用と職員のIRスキル~」

深堀 太博(甲南大学教育学習支援センター, 職員, 招待発表者)

甲南大学における, 大学IRコンソーシアム共通調査, 履修・成績情報, 入試情報, 卒業後の進路に関する情報などといった各種IRデータの活用の現状について, 具体的な活用事例やデータ収集の体制, 活用の際の注意点を紹介する。加えて, 職員としてIRの実務を担当する立場から, IRを担当する職員に求められるスキルに関して, 私見を交えながら考察する。

「北海道大学における教学IR活動の取り組み」

宮本 淳(北海道大学高等教育推進機構, 教員)

北海道大学では, 平成24年度に採択された文部科学省大学間連携共同教育推進事業により, 国内の国公私立7大学と連携して教学に関するIRを担うIRネットワーク推進室が設置された。この事業では, 各連携大学内で教学IRを推進することも目標となっており, 共通学生調査の結果や教務情報データを用いて比較分析を行い, 本学内においても学部との連携, 執行部への報告等を進めている。IR機能を利用した評価体制の構築と各種データの活用について試行錯誤の過程を共有し, これまでの成果と今後の課題について議論したい。

「北海道科学大学の教学IR活動について」

石黒 祐介(北海道科学大学総務課, 職員)

本学では, 平成28年度から教学IR活動を本格的にスタートさせており, 大学IRコンソーシアム加盟, 汎用的能力測定試験PROG, 学生に対する教育目的達成度調査等の取組により, 教育目的達成状況の評価とフィードバック体制を構築しています。今回は, 本学の取組を紹介させていただくほか, 他大学の取組について学ばせていただき, アドバイスをいただきたいと思います。

ラウンドテーブル④ SD全般(9:00～10:25, 第2会議室)

司会: 三上直之(北海道大学高等教育推進機構)

発表:

「SD義務化を契機に大学・職員に求められる次の行動」

喜久里 要(早稲田大学研究戦略センター, 職員, 招待発表者)

「SDのためのSD」ではなく、大学が抱える課題の解決と求められる大学運営の姿に向けたSDを、義務化を契機に大学職員は我が事として捉え、その有り様を模索することが大切である。本報告は、職員が「当事者兼研究者」として大学運営のあり方を見つめ直し、採るべき行動を考えるプロセスの成果と意義を共有しつつ、各大学にとって望ましいSDや職員研修にとどまらない視点でのSDについて参加者が考察する機会となることを期待するものである。

「学校法人北海道科学大学におけるSD活動について」

北條 誠(北海道科学大学人事部人事課, 職員)

事務職員の知識・技能・能力の向上と人材育成を目的として実施している「新人職員を対象とする研修プログラム」、「事務職員全員を対象とする定例開催の研修会」、「階層別の研修会」、「他大学との相互派遣研修」、「職員自身の企画による研修」及び「自己研鑽の助成制度」について紹介する。

「北海道大学学務部におけるスタッフデベロップメントの実施状況について」

出口 寿久(北海道教育大学学務部, 職員)

本学学務部では、平成27年度から、学務系職員として欠くことのできない資質・能力を効果的に取得させるため、本学総務企画部が実施する職員研修のほかに、学務部自ら企画立案した新たな4つの研修(短期相互派遣、教学IR勉強会、プレゼン発表会、個人情報研修)を実施している。

これらの研修は、短時間の集中型から半期にわたる長期型や、適性に応じた属人型から大人数講義型など多様な内容・形態となっており、その実施状況を紹介する。

ラウンドテーブル⑤アクティブラーニング(10:35～12:00, 第3会議室)

司会: 山本 堅一(北海道大学高等教育推進機構)

発表:

「学生の主体性を育むアクティブラーニングの実践－教職員と学生の協働による地域貢献活動の一事例－」

石川 千温(札幌学院大学, 教員), 松本 賢彦(札幌学院大学, 職員), 長谷川 友則(札幌学院大学, 職員), 高橋 麻美(札幌学院大学, 職員), 後藤 久美代(札幌学院大学, 職員)

「教養ゼミナールA」では、2015年度から道東の清里高校の文化祭に本学学生が参加し、「清里高校の文化祭を盛り上げよう」というテーマで実施されている。今年度は学生17名と教職員5名が関わり、本学でも教職員と学生が協働する形で実践されるユニークなゼミナールとなっている。特に、今年度は、学生の主体的な学びを自己評価するためのプロジェクト評価シートを、学生自らで設計し、事前評価、中間評価、事後評価を行う事で、このゼミナールの成果を学生自身が客観的に評価できる仕組みを導入した。

「同一科目を対象としたアクティブラーニング授業の効果検証－授業理解度と学習動機の推移への注目－」

辻 義人(小樽商科大学グローバル戦略推進センター, 教員)

大学教育の質保証の一つの手段として、アクティブラーニング(以下、AL)に対する関心が高まっている。AL教育の目的は、双方向的な学習活動の導入を通して、学生の自学自習を促進することである。ここで、同一内容の授業について、通常の座学形式と、AL形式で実施した際の教育効果(学習意欲と態度、授業理解度)について比較を行った。その結果、両形式の授業理解度に差は認められなかった一方、AL形式における学習動機づけの維持効果が見られた。

「グループワークを促す動機付けの手法とグルーピング」

山本 堅一(北海道大学高等教育推進機構, 教員)

授業にグループワークを導入すると、個々人の取り組み態度に差が生じ、グループ活動の成果がグループメンバー全員の貢献であったり、特定の個人によるものであったりと、教員の描く学習過程を辿らないことがある。本報告では、北大1年生のフレッシュマンセミナーにおいて報告者が行ったグループ活動の動機付けの手法と、グループ活動に貢献した者同士と貢献しなかった者同士を集めてグルーピングした結果の学習パフォーマンスについて報告する。

ラウンドテーブル⑥ FD全般(10:35～12:00, 第4会議室)

司会: 中村 基訓(旭川工業高等専門学校)

発表:

「道内4高専の教育の質保証」

下郡 啓夫(函館工業高等専門学校, 教員), 劔地 利昭(函館工業高等専門学校, 教員), 宇津野 国治(苫小牧工業高等専門学校, 教員), 長澤 智明(苫小牧工業高等専門学校, 教員), 大島 功三(旭川工業高等専門学校, 教員), 中村 基訓(旭川工業高等専門学校, 教員), 千田 和範(釧路工業高等専門学校, 教員), 栴原 浩平(釧路工業高等専門学校, 教員)

現在, 全国51の国立高専では, すべての学生に到達させることを目標とする最低限の能力水準, 修得内容を明示したモデルコアカリキュラムを設け, 教育の量から質への転換を図っている。その対応の一貫として道内4高専では, 授業コンサルテーションを軸に据えた, 教育能力開発の基盤づくりを進めている。今回は, その現状と今後の展開について報告をする。

「教育スキルアーカイブの構築とFDへの活用」

中村 基訓(旭川工業高等専門学校システム制御情報工学科, 教員), 坪井 泰士(阿南工業高等専門学校創造技術工学科一般教養, 教員), 松本 嘉孝(豊田工業高等専門学校環境都市工学科, 教員)

様々な課題に直面する学生を, よりよく育むためには, 我々教員の教育スキルの向上が必須である。そこで我々は, 高専教員が実際に扱う手法や知識について, より具体的な「教育のコツ」としてVTR化し, 教育スキルアーカイブとして集約し体系的に整理した。また, ICT技術を活用して全国の教員間で共有するシステムを構築した。さらにこのアーカイブを活用し効果的な教員FDに発展させることを目指している。今回は構築したアーカイブの概要とその活用例について発表する。

「旭川医科大学でのFD活動と展望」

吉田 成孝(旭川医科大学教育センター, 教員)

旭川医科大学のFDではワークショップ形式, 講演会形式と学生アンケート形式による取組みを行っている。ワークショップへの参加者を増やすために, 各講座を訪問して, 講座ごとにミニワークショップを行う取組みにより, 累計参加者は増加した。学生による授業アンケートは平成13年から実施しているが, この効果検証のため教員対象の調査を行ったところ, 学生アンケートによる授業改善がなされていることが示された。

ラウンドテーブル⑦ SD全般(10:35～12:00, 第2会議室)

司会: 三上 直之(北海道大学高等教育推進機構)

発表:

「係レベルで企画する機動力の高いプチ研修会実施報告」

野中 雄司(北海道大学附属図書館, 職員)

研修は組織的な人材育成の方針の元に研修担当部署が企画し実施されることが多いように思う。ただし、実際には日常的な打ち合わせ等において他部署や業者、同僚から有益な情報交換や知識を習得する機会は数知れない。

そのような機会は広く共有すべきと考え、図書館の一係で小規模な研修会を企画し、広く全学図書館職員や関連職員に参加を呼びかけ実施している事例を紹介する。時宜にあった現場のニーズを捉え、機動的に企画できることが特徴であると考えている。

「学びとつながりが生まれる若手・中堅職員主体の自主勉強会」

川村 路代(北海道大学附属図書館, 職員)

自主的勉強会の企画運営による職員の能力開発について考えます。若手・中堅職員を中心とした大学横断的な勉強会「北海道の図書館職員を中心とした有志による自主的な勉強会(仮)」運営の事例を紹介しながら、企画側のメリットおよび参加者・組織にとっての意義や成果について、参加者へのアンケート結果も踏まえ考察します。

「ロールプレイングを用いた職員研修の取り組みについて」

齋藤 恵子(札幌学院大学, 職員)

本学教育支援課では、年に1度係長研修を開催し、係長が自身の業務の取り組みや課題、時宜のテーマを取り上げて発表を行っていた。2015年と2016年は、課員や、副学長なども参加し、本学で定義されている理想の職員像を念頭に置き、ロールプレイングを用いて学生に気づきや行動変化のきっかけを与える学生対応について考えるワークショップを取り入れた。企画から当日の運営まで課員が行った。本発表では、前述の研修の取り組みについて報告する。